

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 9 日現在

機関番号：34303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03869

研究課題名（和文）若年者の自動車保有及び車種選択の要因に関する研究

研究課題名（英文）A Study for Car Ownership and Selection of Car Types in Japanese Young Generation

研究代表者

田中 秀樹 (Tanaka, Hideki)

京都先端科学大学・経済経営学部・准教授

研究者番号：90567801

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題においては、自動車保有意識に影響を与える要因について、日本の若年層（18-25歳）へのアンケート分析を通じて分析を行った。その結果、下記の点が明らかになった。まず、男性と女性では自動車に対する意識が異なり、女性は自動車の実用性を重視する傾向が男性よりも高いことが明らかになった。オンラインツールやスマートフォンへの関心は高い若者ほど自動車に関心がないことも明らかになった。また、日本の若者は自動車をもたらす環境問題への関心は高いものの、異常気象や大気汚染から自身を守ってくれる移動手段としての自動車への期待を持っており、環境保護と利便性の社会的ジレンマに陥っていることも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では「若年者の自動車保有及び車種選択に対して影響を与える心理的要因・環境要因」に焦点を当てて、多角的な視点から分析を行った。男女間比較、居住地間比較などを行い、若年者であってもそれぞれの属性や社会環境によって、自動車への意識、車種選択の際の嗜好性が異なることを明らかにした。いわゆる「若者のクルマ離れ」の要因の一端を明らかにするために、経営学、交通計画・交通工学、心理学の研究領域を融合させる形で多面的な分析を行った。この点は実務的にも示唆に富む、本研究の特色・独創点である。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we analyzed the factors that affect the consciousness of owning a car through a questionnaire analysis of young people (18-25 years old) in Japan. In these analyses, we had some findings. First, it was revealed that men and women have different consciousness about cars, thus, women are more likely to have importance on the practicality of cars than men. It was also revealed that younger people are less interested in cars than those who are more interested in online tools and smartphones. Although young people in Japan are highly interested in the environmental problems that automobiles have brought, they have expectations for automobiles as a means of transportation to protect themselves from extreme weather and air pollution. Therefore, they have social protection of environment and convenience. It has also become clear that they have social dilemma for using cars.

研究分野：経営学

キーワード：自動車保有 車種選択 若年者 男女間比較 居住地間比較 環境意識 オンライン使用頻度 社会的ジレンマ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

2013年、ある大学での講演に「若者の車離れをどう思うか」について質問を受けたある日系自動車企業社長は以下のように答えた。「私が若いころは免許を取って車に乗るのが常識だった。今は携帯電話など、車以外にお金を使うものが増えたことが（若者の車離れの）原因だと思う」。この発言は“日本の自動車会社トップが「若者と自動車を取り巻く環境が変わったこと」を指摘している発言”として、ブルームバーグなど多くの海外メディアでも取り上げられた。日本自動車工業会(JAMA)レポート(2008)によると、日本の18-29歳人口のうち79%は自動車免許を持っているものの、自分専用の自動車を持っていない者は54%にのぼっており、同レポートでは「若年であるほど車に対する“こだわり”を持っていない」ことも報告されていた。JAMA レポート以外に、若者の自動車への意識については民間企業による「自動車に関するアンケート」などで調査がなされているが、学術的議論・理論に基づいた研究は当時あまり存在しない状況であり、自動車に対する若年層の意識及びそれらの規定要因は明らかにされていなかった。

そこで、本研究では、若年者の自動車保有及び車種選択における態度、自動車保有及び保有願望・車種選択に影響を与える心理的要因・環境要因を明らかにすることを目的として掲げた。

なお、当初は国際比較研究も念頭に置いていた。しかし、予算及び研究に係る調整の関係上、今回は実現がかなわなかった。

2. 研究の目的

上述の通り、本研究の目的は、自動車に対する若年層の意識の規定要因は明らかにされていなかった状況を鑑みて、下記の2点を明らかにすることである。

若年者の自動車保有及び車種選択における態度は性別・居住地によって差はあるのか
自動車保有及び保有願望・車種選択に影響を与える心理的要因・環境要因は何であるのか

3. 研究の方法

研究方法はインタビュー調査及びアンケート調査を実施した。国内のコンパクトシティ化が進む地方都市とコンパクトシティ化を頓挫した地方都市においてインタビューを実施して、都市構造や公共交通機関の有無による若年者の自動車保有・利用の傾向などを把握した。これらのブレインインタビュー調査をもとに、都市間比較や男女比較を念頭においたアンケート調査を行った。

調査概要：2017年10月実施、オンラインサーベイ、東京23区・京都市・青森県・岩手県・秋田県・富山市に住む18-25歳の若年層を対象に配信

回答数：1125名

4. 研究成果

本研究で明らかになった点は下記の通りである。以下に掲げる分析は「3. 研究の方法」に示したアンケートを用いたものである。

若年層の自動車に対する意識

自動車に対する以下の 3 つの意識（「道具としての自動車」「ステータスシンボルとしての自動車」「愛着の存在としての自動車」）のいずれを持つのかについて分析を行った。その結果、「道具としての自動車」が若年者の自動車への意識としては最も大きいことが明らかになった。

本結果及び関連する研究成果は、”**The Meaning of Car Use / Driving in Japanese Young Generation**”（**2019 The International Conference on Industrial Engineering and Engineering Management, 2019 年**）などで成果を公開している。

自動車保有意識の規定因

上記の心理的な側面以外に自動車保有意識を高める要因として、「大気汚染などから身を守る手段としての自動車」「移動範囲・時間に自由度を与えてくれる自動車」といった意識も作用している可能性が示唆された。

社会的ジレンマ

「環境への配慮（例：排気ガスを削減したいという思い、など）」と「環境から自身を守ってくれる自動車の有用性（例：黄砂などから身を守るために自動車で移動したいという思い、など）」の間で一種の”ジレンマ” (**Social Dilemma**)を感じている若年層が一定数存在することも示唆された。

社会参加の方法と自動車保有意識

オンラインツール(インターネットゲームなど)への参加は自動車保有に負の影響を与える可能性が示唆された。この結果から、社会参加方法がオンライン化することによって、若年者の自動車保有意識の低下を招く可能性が垣間見られた。

～ に関する研究については、”**Impact of Social Involvement on Car Ownership among Young Japanese**”（第 58 回土木計画学研究発表会、**2018 年**）で学会報告を行い、”**Joint car ownership and car type preference model considering engagement in online activities and environmental concern**” *Transportation Research Part F: Traffic Psychology and Behaviour*, Vol.68, pp. 293-305（国際共著論文）で国際学術雑誌にて掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Belgiawan, P.F., Schmocker, J.-D., Abou-Zeid, M. and Fujii, S.	4. 巻 2666
2. 論文標題 Analysis of Car Type Preferences Among Students Based on Seemingly Unrelated Regression	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Transportation Research Records	6. 最初と最後の頁 85-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3141/2666-10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Belgiawan, P.F., Schmocker, J.-D., Abou-Zeid, M. and Fujii, S	4. 巻 2666
2. 論文標題 Analysis of Car Type Preferences Among Students Based on Seemingly Unrelated Regression.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Transportation Research Records	6. 最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3141/2666-10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Sunio, V. and Schmocker, J.-D	4. 巻 11(8)
2. 論文標題 Can we promote Sustainable Transport Behavior Through Mobile Apps? Evaluation and Review of Evidence	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Sustainable Transportation	6. 最初と最後の頁 553-566
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kim Junghwa, Tanaka Hideki S., Schmocker Jan-Dirk	4. 巻 68
2. 論文標題 Joint car ownership and car type preference model considering engagement in online activities and environmental concern	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Transportation Research Part F: Traffic Psychology and Behaviour	6. 最初と最後の頁 293 ~ 305
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1016/j.trf.2019.11.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Kim Junghwa, Hideki S. TANAKA and Jan-Dirk Schmoker
2. 発表標題 Impact of Social Involvement on Car Ownership among Young Japanese
3. 学会等名 第58回土木計画学研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Belgiawan, P.F., Schmocker, J.-D., Abou-Zeid, M. and Fujii, S.
2. 発表標題 Analysis of Car Type Preferences Among Students Based on Seemingly Unrelated Regression
3. 学会等名 The 96th Annual Meeting of the Transportation Research Board (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tanaka, H.S.
2. 発表標題 The Meaning of Car Use / Driving in Japanese Young Generation
3. 学会等名 2019 The International Conference on Industrial Engineering and Engineering Management (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Belgiawan, F., Schmocker, J.-D. and Nasution, R.A
2. 発表標題 Influence of parents on their children's car choice: A comparative study of Japanese and Indonesian data
3. 学会等名 International Choice Modelling Conference (ICMC2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Schmoecker J.D. (Schmoecker Jan-Dirk) (70467017)	京都大学・工学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	BYOSIERE P.H.R. (Byosiere Philippe) (50367976)	同志社大学・ビジネス研究科・教授 (34310)	
研究分担者	ベルギアワン プラワイラ (Belgiawan Prawira) (80771112)	京都大学・工学研究科・研究員 (14301)	